



編集発行
羽津北小学校
PTA広報部
印刷
阿竹印刷工業(株)

第 17 号



ふれ合い楽しく！

— 教養部 —

親子陶器

絵付け教室

七月七日土曜日、一時半より羽津北小学校会議室と一年一組の教室で、陶器手描き絵付け教室が開かれました。「親子のふれ合いを求めて手づくりの作品を楽しもう」と、昨年のろくろを使った陶芸教室に続いて催されました。

教室には親子と先生合わせて百十名（内先生八名）近くも参加していただきました。

藤沢脩石四日市萬古陶芸協会会長による「絵付けについて」の話をうかがった後、林君也眞窯業試験場長、当地区の高名な陶芸作家、清水洋氏ら五名の先生方の指導のもと、親子が額皿とミルクカップに手描きで絵付けしました。

事前に考えて来た花や漫画などのデザインをもとに、鉛筆で下絵を描き、緑や赤、黄など陶芸用の七色の絵の具で色を付けました。子供たちは、船、魚、ロボットなどを、お母さんたちは、バラ、



フラワー教室

夏休みも終わり近くの八月二十七日、親子で「フラワー教室」へ

ヒマワリ、朝顔の花など思い思いの絵を描いて、みんな四苦八苦しながらも、親子で楽しそうに作品に取り組んでいました。関係者の方々のご協力により、大成功に終わりました。今後も、このような企画が持たせられたいと望んでおります。十一月に催される作品発表展に花が添えられるかしら。 教養部



出かきました。親子して、決して器用だとはいえないほうなので、あえて参加してみました。

野呂先生の指導で、バラとスイトピーを作ることにしました。私には、文字通り図工の時間となりました。さすが、先生のお手本のバラは、いかにもそれらしく映っているかのようでした。手順ごとに先生から指導を受け、取り残されないように、一生懸命汗をふきふき健闘いたしました。一年生の我が子には、可能な所を任せました。フラワー作りの第一歩は、花の咲いている様子を、細く観察する事ではないかと思えました。各目、好きな色でつぎつぎと出来上がり、広い体育館がバラ園とはいきませんが、何種類ものバラがあつてとてもきれいでした。生徒一同、体育館の床に座つての三時間余りでした。

帰宅して、留守番をしていた上の子からは、「それ、カーネーション」という問いが返つてきた出来上がりでした。



第3回 秋季大運動会

運動会

父兄

前夜の雷雨にもかかわらず、秋晴れの空の下、待ちに待った秋季大運動会が開かれました。プロブレム一番の三年生の個人走に始まり、赤勝で青勝で黄勝で、と子供達の声援は秋空にこだましました。その熱狂ぶりにつられて、観覧席にいた私たちも負けじと声援や、激励の拍手を送りました。又、競技中の子供達も一生懸命で、やりなおいのピストル一回の音も耳に入らず、係の六年生の旗の制止をもふり切つて走ろうとする姿はとても印象的でした。

途中から色別得点の方も差がついて、結果としては大差となつてしまいましたが、それでも最後まで一致団結し、カ一杯頑張っている様子はどの組も甲乙つけがたいものでした。でも結果発表が三位で



あつても、がっかりした様子をしないで観覧席にいた私たちの拍手に励んで欲しかったですね。

一方、学生演技でも一年生のかわいらしい踊りや五・六年生の組み立て体操など、先生方の指導ぶりがかがえるすばらしいものでした。

全てのプログラムがスムーズに運ばれたのも先生方や色々な係に ついた五・六年生の陰の力によるものと思います。又、青空のもとで子供たちの成果に目を傾けながらお弁当を食べたときは、親子のふれあいを深める良い機会にもなりました。



うんどうかい
一年一組 はやし なちよ

みなみのしまのおどりが、一ぱんだのしかつたです。どれみのもたもきれいななをつけていたからとつてもすてき。らいねんはいつてくるこたちもみていました。おかあさんは、



「みなみのしまのおどりがきれいだったね。」
といつてくれました。わたしはうれしくなってきました。わたしは、おとうさんは、
「とうだつたからしやしんをたくさんとつてあげたからね。」
といつてくれたので、わたしは、どんだんうれしくなりました。たのしくなってきました。

初めての運動会

一年一組 わほ さおり

わたしは、はしるのがれんしゅうのときとうだつたので、あさおきておかあさんに、
「はしるのーとうにならなよ。」
といわれました。
がっこうへいって一ねんせいといちはかしまりは、ときようそつでわーのばんになると、おね

がどきどきしました。

びすとるがばんとなつてびつたりしました。ゆきこちゃんともりかなえちゃんとはしりました。ゆきこちゃんのほつがちよつとおそかつたけど、ぬがされました。それで六とうになりました。たまいれるとき、きくみがいちばんかつつうれしかったです。



心えん合戦

五年一組 増田 照子

「今から全校児童による心えん合戦を始めます。今年はず、黄、赤の順で行きます。まずは青組の心えんです。」
という放送が流れました。私達の組は青です。トッパで始まりました。オース、オース、今年こそ青

組み立て体操

五年二組担任 水谷 裕康

組はゆう勝するぞ、がんばらな。私はみんなの大きな声を聞いて、しいけるぞ、これは、と思いましたが、青は声を出しきつて終わり、赤も黄もなかなかの出来でした。結果、「一位青組、二位赤組、三位黄組」でした。私は一位と聞いてとてもうれしくなりました。来年もこの調子でがんばります。



「ピー」という笛の合図、観覧席からのおしめない拍手、緊張をただよわせた子供たちの真剣な顔目や耳から私の中に入ってきた。私の頭の中には「今まで練習したこと子供たちは精一杯出しているなあ。」という感動にも似た、何か胸が一杯になる気持ちを、おぼえました。

思えば「組み立て体操」の練習を始めたのが、夏の日差しが照りつづけた六月でした。炎天下での練習は、さぞ子供たちにとつてつらく長い時間であつたらうと思えます。汗を顔一杯にかき、真剣なまなざしで練習した日々を思い出さずにはいられません。できるまで何度もやり直しました。厳しい練習に、子供たちは不満げな表情を見せたこともありましたが、彼らはそれをのりこえがなつたのです。また、友と友と力を合わせ協力しあつたことの大切さを、頭だけではなく体を通して学びたいと思ふことができました。



組立体操

六年一組 黒木 亨

「フジッ」「ピー」と笛がなつた。ほくは、フジッの中心の一番目だ。練習の時、一度だけ、しっはいたただけなので、自信をもつてやつた。と思つている間に、最後の笛がなつた。本番でできたといつたので、いい思い出になると思つた。

つばいだった。次は、花だ。ほくたちが一番しつぱいしているの、今日こそは、と思つてのぞんだ。笛がだんだんなつていき、最後の笛もなり終わった。ほくは、とても苦しかつた。でも歯をくいしばつてがんばつてきてよかった。ほくは、終わりまで全部できた。とてもうれしかつた。組立体操は、小学校のいい思い出になると思つた。

夏休み作品展



夏休みの校内作品展をみて。

教頭 田村 節生

本校では例年夏休み後に、体育館で休み中の児童の作品展をしています。本年度は九月五日から七日まで実施をしました。年々充実した作品展ができるようになってきました。

今年は図画、習字の他に、低学年が「動くおもちゃ・水族館」等の作品、高学年が「手芸・理科・社会科等の研究作品」が多かつたように思います。それぞれに創意工夫を生かした力作揃いでした。社会科の作品と

して「志氏神社・電気がとくまで・万古のできるまで・歴中生表」・理科作品として「カビを防ぐに・おい・アマガエルの色がわり・花粉・かい・ねずみのおうち」等は、よみかへ研究された作品として、三週小作品展に出展されました。子供たちが、自主的に創意工夫をこらし、手づくりの作品にとり組んだり、計画を立て、一つのことを研究することは、すばらしい勉強だと思えます。夏休みだけの作品作りに終わることなく、日常生活の中で、こつとしたり組みができ、少しでもそれに生きがいを感じる子供がふえることを、願っています。

母と女教師の語る会を終えて

相談できる母親に

三年一組担任 服部真左子

現代社会は子供の成長にとってプラスになる環境ばかりではありません。非行への落とし穴はいつでも、どこにでも口を開けて待っています。しかし、子供たちが非行に走る以前に、私たちにできることが何かあるはずですよ。このことから、家庭内で親にできること、特に、お母さんにできること、なすべきことを、母親と女教師が共に考え合いました。

子供たちの非行をさかのほれば、そこに必ず親の姿が浮かんできます。それだけに母親の子に対する接し方がいかに大切かということ、ビデオを視聴する中であらためて感じました。

「ある日、お母さんが息子の蒲団を上げてみたら、目もそむけなくなるような本が置いてあった。驚いたお母さんはすぐ先生のところへ相談に行つたが、十六歳の息子さんにとっては全く正常なことであり、叱らざるに本を焼いてしまいなさい」と言われた。お母さんは半信半疑でその通りにしたところ、子供の方

から、まだ隠していた本を持つてきた。それ以来、その子供はお母さんに何でも相談するようになった。」

子供が母親に相談している以上、非行には走らない。このことが、今日の母女の会のまとめであつたと考えます。

四年 森 小夜子

私にとって初めての参加で、少々緊張気味でしたが、堅苦しい雰囲気もなく、すべしに解け込みました。



四つのグループに分かれ、ビデオのテーマ「非行と親の役割について」から一番感じた事を聞き合いました。学年差のあるお母さん方とは日頃会話もなく、同じテーマで話し合う機会は、殆どありません。そんな意味で、一度に皆さんの感想を聞かせて頂き、とても有意義な時間でした。そして、改めて親子の接し方の大切さを感じました。今日を流されず、もつと真剣に生きる事を、深く反省しました。話の中で「非行は子供の訴えである」と言つ言葉がありました。親は、我が子を知っているつもりで、何も分つていない。幼ない頃の我が子ではない。現在の我が子をよく知る事の大切さ。時は流れている事につかりして、私はハツとしました。どれだけ分つているだろうか。と私は、一人ずつ子供について思い巡らせ、恥ずかしくなりました。

これからは、思考次元をゼロに合わせ、毎日スタートする様、努力と工夫を重ねて行きたいと思ひます。



救急法講習会開催

去る七月十一日(日)羽津北体育館に於て、四日市市消防本部の方々の指導で、四〇名の参加のもと、救急法講習会が行なわれました。二人一組で実物大の人形を相手に人工呼吸とあわせて心臓マッサージのやり方を教えて頂き、なごやかなムードの中にも真剣に訓練を受けました。

保体部

プール運営を終えて

七月二十五日～八月二十五日の間、プール監視をしてくださった方々、暑い中を御苦労様でした。みなさんの御協力により子供達は、安心して泳いだり、水遊びをする事が出来ました。又、一人の事故者もなく無事に終える事が出来、ありがとうございました。保本部

試食会アンケートに

ついて回答

●先割れスプーンの問題

米飯以外の日でも自由にお箸を使ってよいので衛生面に配慮して持たせて下さい。

●副食の量について
献立、学年、個人により差がありますが、一年生でみるとだいたい適量と思います。

●食品添加物の問題
ハム等なまものは、基準量を下回る殺菌保存料を使用。完全熱処理の出来るものは、無添加食品です。紅しょうがは、少量の着色料を使っています。

●農薬の少ない野菜を使いたい
現状は、市場を通じて購入のためおむずかしい問題。消毒のため酢水を使い、洗いを丁寧にする事で対処しています。

●牛乳の味が薄いについて
栄養と料金の両面を考え、限界が現状です。

●味付けを薄くしてほしい。麦の量をふやしてほしいについて
先の各項目同様職員会で話し合つたところでは、量は適量。味付けは、塩がらいつがあつたので、調理を研修し、工夫していきます。

編集後記

「けやき」第十七号、編集に当たり、多数の方の御協力を頂きまして、ありがとうございました。

秋の夜長に、御家族みなさんで読んでいただけたらと願っています。